

■研修名：令和3年度 基礎技術研修（環境教育）

■実施日：①令和3年12月8日13時～9日12時

14名参加（若年職員12名 ＋ 一般参加者 2名）

②令和3年12月9日13時～10日12時

16名参加（若年職員11名 ＋ 一般参加者 5名）

■実施内容：プロジェクトWETエドゥケーター講習会

① 12月8～9日



- 研修目的：環境教育・出前講座・地元説明等にて利用可能な各種スキルを身につける。
 - 目指す効果：環境教育に関する体験・実習などによる、環境教育スキルの向上ひいてはプレゼン技術や地元周知の技術向上を期待する。
 - プロジェクトWETとは？：体験型の水教育プログラム（ゲーム形式で水に関する色々な事を楽しく学ぶアクティビティ集）
- 参考HP プロジェクトWET <https://www.kasen.or.jp/wet/>

② 12月9～10日



(1) アイスフレイク

（初対面の参加者間の緊張をほぐす事で、先生・生徒の両方について研修に入りやすくする）

① 「青い惑星」と自己紹介
（地球の海の面積は何パーセント？）



(2) アクティビティ体験

（プロジェクトWETのアクティビティを体験して、楽しさと進め方・説明するノウハウなどを知る）

③ 「驚異の旅」

（水の大循環をサイコロで体験）



「コミュニティを比較しよう」

（水面上昇が生態系を変える？）



④ 「塵も積もれば」

（開発と水質汚染の話、点汚染と面汚染の比較、川は汚染を下流に流し最後に海に流れる、小学校では「ゴミ」で説明）

② 「大海の一滴」

（地球にある水の中で、人間に利用可能な水の量は何パーセント？）



アクティビティを連続して使用した例の紹介 ①～④を説明（小学校などの出前講座で使用した例）

- ①地球は水の惑星 7割は海。
 - ②多くあると思っている水も使用可能な水は少なく全体の0.003%だけ。
 - ③水は地球を循環している。
 - ④少しの汚染でも下流に行けば行くほど多くなる
- ふりかえり、目の前の少しの汚染を防ぐことでも、下流の方や海は、少しだけでも良くなり、ひいてはいずれ自分に帰る。



(3) ピア・ティーチング

（教師役と生徒役に別れて相互にアクティビティの研修を行う）

「ハンパティダンパティ」

↓ 動画を流して、つかみバッチシ！



↓ 各班毎に打合せや準備、テストプレイを実施してます。↓



「水リンピック」

← 生徒役、真剣に体験しています。

→



「水差しを回そう」



10日の実施状況

← 実施した班毎に異なるのも良い(^-^)



9日の実施状況